

★ 人手不足が深刻化しています！

厚生労働省が1月31日に発表した昨年12月の有効求人倍率は、前月比0.02ポイント上昇の1.43倍（1人対して1.43件の仕事がある）と4ヵ月連続で改善し、1991年7月以来、25年5ヵ月ぶりの高水準でした。1991年といえばバブル崩壊直前の時期と重なりますので、今の水準がいかに高いかが計り知れます。この傾向は転職市場でも同様で、転職エージェント大手「DODA（デューダ）」を運営する㈱インテリジェンスが発表した、今年1月の転職求人倍率は2.35倍、求人数は26ヵ月連続で最高値を更新しています。

【人手不足が特に叫ばれている5大業界】

①保育・介護・看護業界

- ・保育や介護は、仕事内容の大変さに比べて低賃金
- ・看護は人の命に直結する仕事で夜勤も多いことから、精神的にも体力的にもハード
- ・休憩もまともに取れない

②運送業

- ・ネット通販の普及等で荷物量が激増
- ・個人宅では不在による再配達、法人の場合は急な集荷の呼出がネック
- ・休憩もまともに取れない

③建設業

- ・東日本大震災からの復興、東京オリンピック特需で仕事量が激増
- ・外での作業（暑い、寒い）が多く、体力勝負の仕事で若者に不人気
- ・下請け構造で「丸投げ」「中抜き」が横行し、悪いイメージが定着

④IT系

- ・基幹系システムの構築だけでなく、IoTと呼ばれる家電製品などの開発の仕事が増加
- ・業界イメージの低下（「かっこいい」「最先端」から「きつい」「厳しい」「帰れない」へ）
- ・IT技術そのものの変化のスピードが速すぎて、追いつくことが困難

⑤販売・飲食系

- ・アパレル業界など華やかなイメージの裏に、職場での厳しい上下関係の存在
- ・ブラック企業の代表格で、長時間の拘束・休日なしは当たり前
- ・若くして店長を任されるが名ばかりで、過剰な責任を押し付けられる

ただでさえ求人が難しい環境の中で、業界特有の問題を抱えている上記の5大業界は、今後もかなり苦戦することが予想されますが、世の中が不景気といっても必ず業績が好調な企業があるように、個々の企業レベルで見れば求人困っていないキラリと光る企業も存在しているはず。そのような観点で、近年注目されている採用手法である「リファーマル リクルーティング（Referral recruiting）」を以下に紹介します。

- ・「リファーマル」は「委託・紹介・推薦」という意味で、つまりリファーマル リクルーティングとは、求人サイトや人材派遣会社などの既存の採用チャンネルに頼らずに、自社の社員や社外の信頼できる人脈からの紹介や推薦による採用活動のこと
- ・日本に昔からある「縁故採用」は、採用する本人の資質や能力よりも、紹介者や推薦者である親族や関係者への配慮が優先されたもの
- ・リファーマル リクルーティングは、一定以上の質が確保され、自社に合うと思われる人材の紹介なので、採用のマッチング精度を高める効果が期待される
- ・2012年にアメリカの大手採用コンサルタント会社が、アメリカの大企業の採用経路を調査した結果を見ると、求人サイト（20.1%）よりもリファーマル リクルーティング（28.0%）が多くを占めており、海外では既に主流となっている採用手法である

日本においても既に旧来型の「縁故採用」から、ある程度の質が確保された採用候補者の紹介にシフトしていると思われませんが、何よりも自分の会社に知人を誘うからには、その知人に恨まれないような魅力ある会社になることが先ずもって重要といえるでしょう。（工藤克己）